

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(女性, 70歳代)あります。型別はO157(VT1VT2)です。本年の累積報告数は44例となっています。詳細は下記ホームページをご覧ください。  
○京都市感染症情報センターホームページ「腸管出血性大腸菌感染症発生状況」  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- デング熱の報告が1例(女性, 10歳代)あります。推定感染地域は国外(フィリピン)です。本年の累積報告数は9例となり、「感染症法」が施行された平成11年4月以降、最も多い報告数となっています。京都市においては、平成15年以降、毎年デング熱の報告があり、最近では、平成20年5例、平成21年2例、平成22年4例、平成23年3例、平成24年7例の報告があります。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(男性, 60歳代)あります。平成25年4月1日から五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降、累積報告数は8例となっています。
- 手足口病の定点当たり報告数は、1.90(78例)で、3週連続で減少しているものの、第30週(7月22日～7月28日)以降、11週連続で過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、1歳が30例(38.5%)で最も多く、次いで、2歳 18例(23.1%)、3歳 9例(11.5%)となっています。  
本年、京都市衛生環境研究所で分離・検出した手足口病由来のウイルスは、すべてコクサッキーウイルスA6(CA6)で、10例となっています。(10月10日現在)
- 水痘の定点当たり報告数は0.76(31例)で、前週(0.34, 14例)に比べ、約2.2倍に急増するとともに、過去5年平均値を上回っています。例年、12月に向かって報告数が増加しますので、今後の動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.98(40例)で、前週 0.76(31例)よりも増加しており、過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 2例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 44例】
- 四類:デング熱 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 9例】(第39週追加分)
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 8例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	1.90	78
	② 感染性胃腸炎	1.88	77
	③ RSウイルス感染症	0.98	40
	④ 水痘	0.76	31
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	16
眼科	流行性角結膜炎	1.20	12

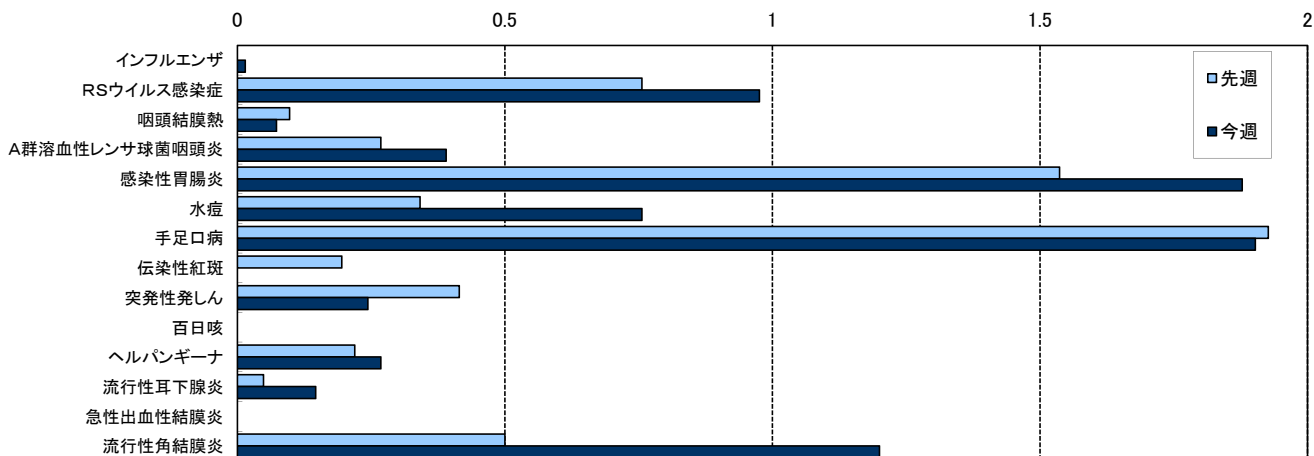
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは、平成25年10月10日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

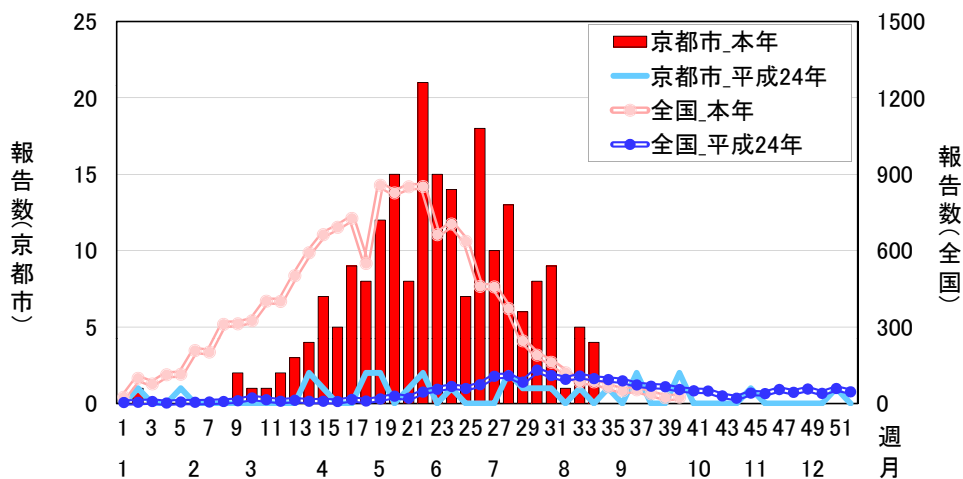
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第40週)と先週(第39週)の定点当たり報告数の比較



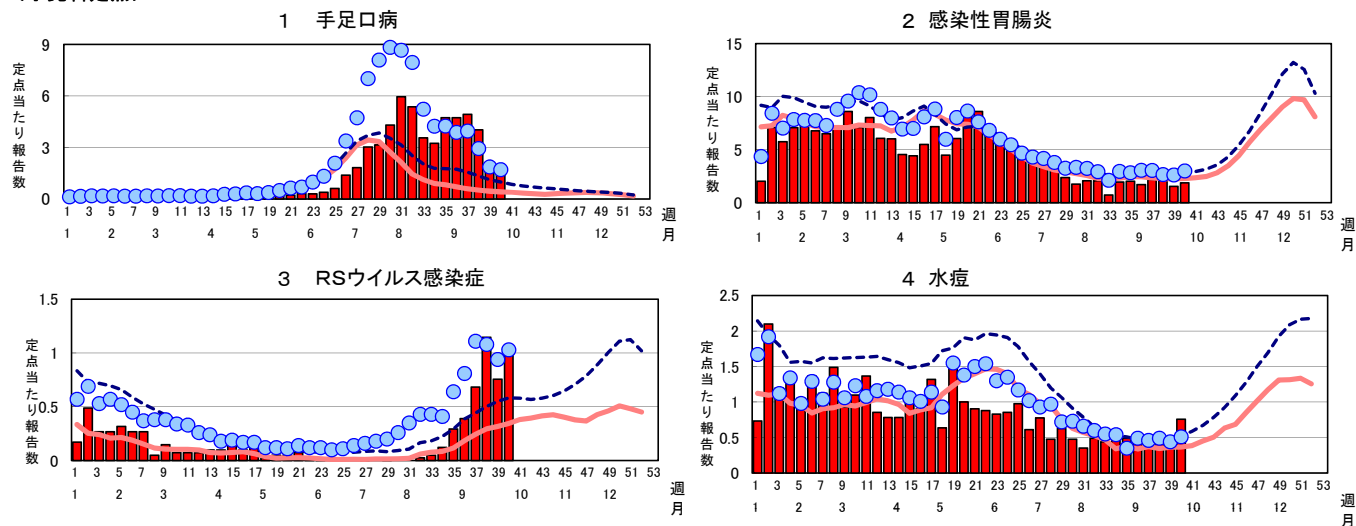
## 2 風しんの推移

今週の報告数(累積報告数) 平成25年10月10日現在	
京都市	0例 (209例)
京都府(京都市を除く)	0例 (112例)
近畿6府県	3例 (5211例)
全国	25例 (14145例)

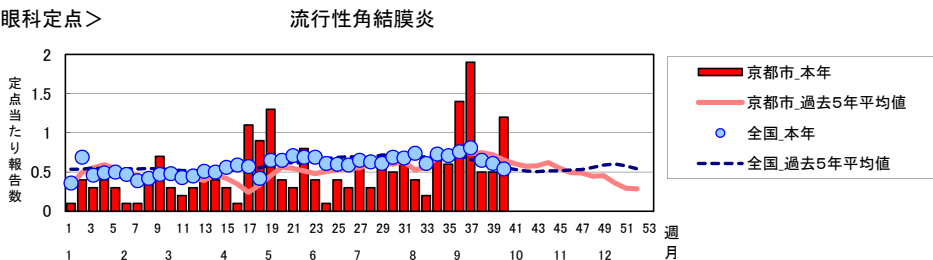


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第40週(9月30日～10月6日)トピックス: <RSウイルス感染症>

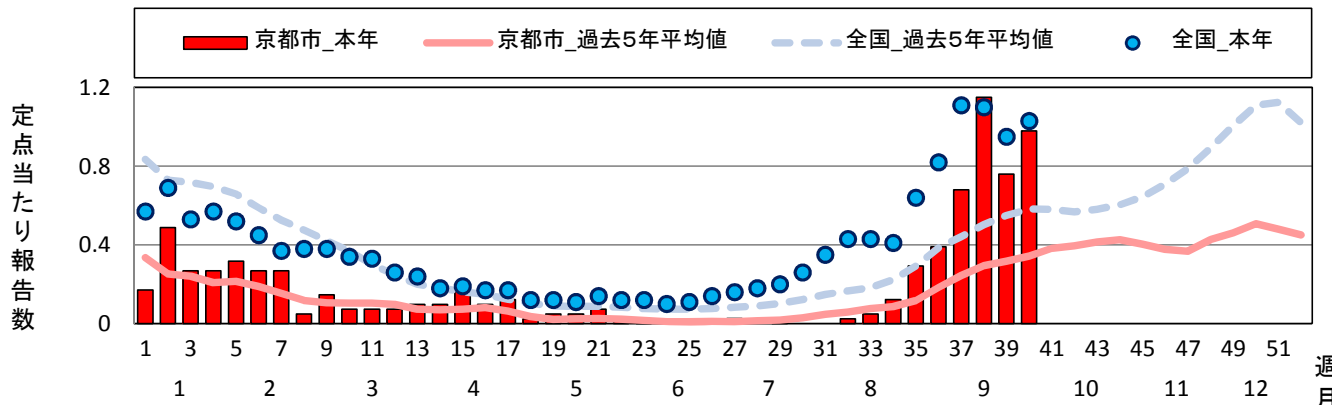
RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.98(40例)で、前週 0.76(31例)よりも増加しており、過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多かった平成24年に次ぐ報告数となっています。

平成22年まで秋から冬にかけて流行していましたが、平成23年、平成24年と2年連続して夏頃から報告数が増加しており、本年も第34週(8月19日～8月25日)以降連続して過去5年平均値を上回っています。今後の動向に注意が必要です。

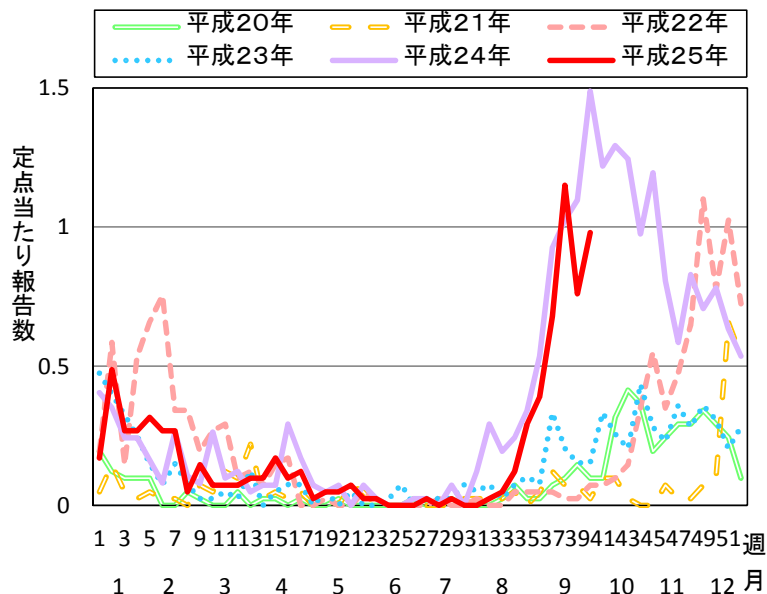
年齢階級別では、1歳が18例(45.0%)と最も多く、次いで2歳 10例(25.0%)、0～5箇月 5例(12.5%)、6～11箇月 4例(10.0%)となっており、0～2歳が92.5%を占めています。

都道府県別では、47都道府県中32都道府県で前週よりも定点当たり報告数が増加しています。また、近畿6府県(第38週～第40週)においては、滋賀県及び和歌山県を除く4府県で定点当たり報告数が増加しています。

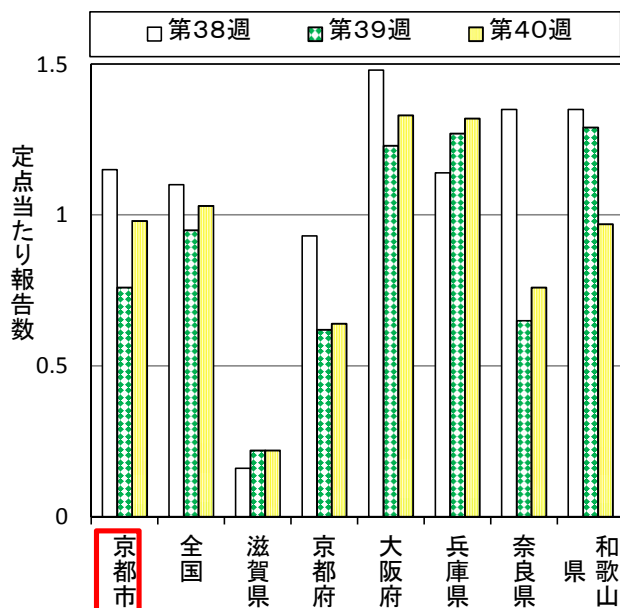
京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の定点当たり報告数の推移



京都市及び近畿6府県の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別割合の推移

